

たばこ病をなくす 横浜裁判応援団ニュース

2005.9.1 発行 4
連絡先 高橋 是良
〒 236-0014 横浜市金沢区寺前1丁目16-6
<http://www13.plala.or.jp/tabakobyounin/>
E-mail : tabakobyounin@yahoo.co.jp
045 (782) 0853 Fax045(786)0789

未成年者を「たばこ病」から守ろう

第3回口頭弁論

9月21日(水) 10時30分
横浜地裁へ



建物の外まで進む全面禁煙(汐田総合病院で)

「たばこのことを知りたい」と青少年も参加 第2回口頭弁論と講演会

6月29日、たばこ病をなくす横浜裁判の第2回口頭弁論が行われました。雨にもかかわらず、地裁前に100人近くが集まりました。

法廷には、「のむぎ太鼓」の若者たちも参加。原告(水野雅信、森下賢一、高橋是良)の弁護団は、国とたばこ産業(株)の弁護団を攻め、「たばこ規制枠組み条約」の意義と重要性を強調しました。

閉廷後、開港記念会館で「たばこ病シンポジウム」を開催。最初に、喉頭癌で声を失った三瀬勝司さんが前に立ちました。喉元を覆っている布をめくると小さな穴が空いています。話し始めますが、ほとんど聞き取れないので、原告の高橋さんがお腹の傷を見せ、「声帯などを切り取った後に代わりに腸でつないだ」と「通訳」。

続いて加濃正人医師が「たばこ依存症 なぜたばこはやめられない?」と題して講演、ニコチン依存の仕組みをわかりやすく解説し、喫煙で作業能力が大きく低下する実験を紹介。「喫煙者は能力を100%発揮していない」「やめようと決意すれば、ほとんど禁煙成功」と強調しました。

(加濃医師の「ニコチン依存症」の部分の要旨は裏面参照)



05年9月21日(水)10時30分、横浜地裁にかけつけ、講演会に参加する。チラシを知人に郵送したり、ファックスや手渡したり、事務所や自宅におくことができる。
ポスターを張り出せる。
宣伝用の紙や切手の提供やカンパなど、財政的な支援ができる。
「たばこの危険性を訴える」宣伝物に、賛同者として名前が出せる。
原告に参加できる
その他あなたができること、または提案をお知らせ下さい。
どれか一つでも力になっていただければ幸いです。

お力をお貸し下さい

カンパにご協力を

郵便振替口座 記号10250 番号8451919

1

講演「たばこと『生活習慣病』」

とき 9月21日(水)10時30分

ところ 開港記念会館1号室

講師 窪倉孝道医師

(汐田総合病院院長)



「タバコ病」で一番怖いのが『ニコチン依存症』

・加濃正人医師の講演(6/29)の『ニコチン依存症』の部分を、『たばこ病辞典』(加濃正人編)をもとに整理しました(文責・編集部)。・

* 200を超える病気の原因がたばこ

喫煙は200を超える種類の病気の原因になります。がん、呼吸器病、循環器病などの病気を引き起こし、タバコ喫煙者の半数を死にいたらしめます。そして、一生のうち病気で苦しむ期間も長くなり、家族への負担が増え、医療費もかさみます。

受動喫煙の被害も重大です。小児への影響などを中心に、ごく短時間またはごく低濃度の受動喫煙によって、致命的な病状の悪化をきたします。日本における受動喫煙犠牲者は年間1万9000人にのぼります。

* ニコチンは麻薬と同じ

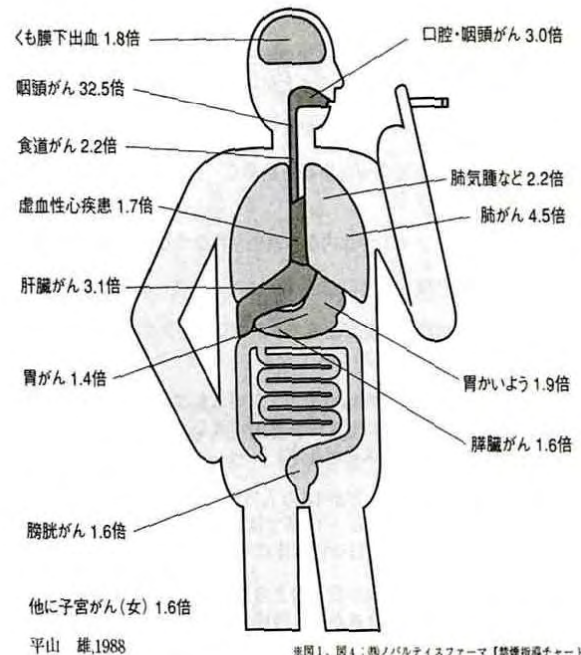
喫煙によって生じる最大の健康障害は、精神をニコチンに支配されてしまうニコチン依存症です。ニコチンには麻薬と同等の依存性があり、タバコは嗜好品ではなく依存性薬物で、本来麻薬と同様に、法律で製造を制限されるべき製品です。

ニコチンは脳の神経のシナプスにおいて神経伝達物質に成り代わり、神経回路を誤動作させます。ニコチン依存症におちいると、シナプスが過剰反応に慣れて機能が低下し、ニコチンなしでは神経回路が正常に機能しなくなります。そこで、またニコチンが欲しくなるといふ悪循環をくりかえし、喫煙量が多くなっていきます。

* ニコチンがストレスを作る

喫煙者は「喫煙がストレスを解消する」「集中力を高める」と感じますが、ストレスの多くはむしろ喫煙習慣によって生じ、ニコチンの離脱症状によって増幅されたりするストレスです。喫煙しているうちは「タバコなしでは生きられない」と思いこみますが、これはニコチン依存症によって起こる錯覚で、禁煙に成功したあとは、ストレスが減りニコチンなしでも集中力が持続します。記憶力や反応速

非喫煙者(1.0)と比較した喫煙者の死亡率(男)



度も上昇し、脳の本来の力を発揮できるようになります。

ニコチン依存症におちいると、タバコのことに関してだけ正常な思考ができなくなります。価値観にゆがみが生じて、タバコが何ものにも変えがたい大事なものに思えてきます。喫煙から脱する第一歩は、「喫煙は考え方をねじまげてしまうニコチン依存症という病気である」と自覚することにあります。

* タバコ消費の六分の一は未成年者

低年齢から開始した喫煙は重度のニコチン依存症を引き起こします。未成年喫煙を防止しなければならない最大の理由がここにあります。同時に、タバコ業界が自販機撤廃や年齢確認徹底を行おうとしない理由もここにあります。

今のところ、このもくろみは成功しており、未成年喫煙は激増しています。日本のタバコ消費の6分の1は未成年によるものです。